

平成14年度カスケードコンテナ 及び周辺花壇装飾

梶川 修

現況

カスケード周辺ではコンテナを用いた本格的な装飾を平成10年3月から始め、平成11年7月にコンテナの配置等の変更を行い、現在に至っている。

大小合わせて69ヶのコンテナと周辺花壇及び立体花壇により、入園者を歓迎し、もてなす気持ちを花で表現できるように心がけて装飾を行っている。

植え替え

平成14年5月下旬から6月中旬に春から夏への植え替えを草花類を中心に、11月下旬に秋から冬への植え替えを草花及びチューリップ等球根類を中心に行った。

4月下旬及び10月下旬に各々、みどりの日及び開園記念日（11月3日）にむけた植え替えを行った。

また、観賞時期を過ぎたものについては随時植え替えを行った。

立体花壇は、4月中旬にベゴニア・センパフローレンスを、10月下旬に中輪タイプのパンジーを植え付けた。

維持管理

4月から10月までほぼ毎日朝1回のかん水を行った。

7月から9月の夏期は朝夕2回のかん水を行った。

コンテナ、花壇とも植え替え時にバーク堆肥、緩効性肥料を元肥として与えた。

ダチュラ、ハイビスカス等の大型花木は月1回化成肥料を与えた。

害虫については、キク科草花にアブラムシの発生が見られたが薬剤散布により防除を行った。

病気については植え替えが早いと特発生は見られなかった。

展示等の活用

カスケード上段のスペースを利用しコンテナガーデンコンテスト（10月5日から17日の12日間）及びハンギングバスケット展（10月19日から11月4日の15日間）を行った。

いずれの展示も華やかな印象を与え、期間中の入園者をいっそう楽しませることができた。

ボランティアによるハンギングバスケット装飾も春と秋の2回植え替え・更新し、ベゴニア温室への通路での展示を行い好評であった。



写真2. ハンギングバスケットの展示

今後の課題

カスケード全般を常に花が絶えないように装飾することはもちろんであるが、コンテナ個々の装飾のみにとらわれず、コンテナ相互に関連性を持たせた装飾展示につとめるとともに、色彩等の工夫によりアクセントをつけるなどゲートから大温室までの距離感を感じさせないような展示を行う。

中央部に導線として配置しているコニファーの傷みが目立つため早期の改植が必要と思われる。

また、草花の植え替えの際には、最新の品種等をいち早く導入するなど話題提供の場としての活用を考える。



写真1. カスケードの植栽



写真3. 春の七草の展示